

坊城俊民 坊城俊民 國文學者、詩人、小説家。大正八年東京生れ、平山成
 二年四月六日没（一九二七年）。學智院を経て、昭和十七年東京帝國大
 學文學部國文學科卒。府立の中學校教諭を経て、都立池袋商業高校校
 長、都立志村高校校長等歴任。二十六年より歌會始の講師カウセイを務める。
 學智院の後輩三島由紀夫に少年期における私の最初の藝術的衝動の
 萌生えは、これを悉く坊城氏に負ふの言がある。

著書に、『日本文學の諸相』（他八名合著・日本文學懇話會、昭和十七
 年八月二十日成武堂）、『旅と日本文學』（井本農一他合著、昭和十
 九年四月二十日成武堂）、小説『末裔』（昭和二十四年二月二十日草
 美社、復刊・平山成八年八月二十日集英社）、『ふるさとの青春』（昭
 和二十五年二月二十日表現社）、『君と旅ゆく』（昭和二十年二月
 二十日桜楓社）等。

